

■今回のセミナーで学んだこと■

- 8050 モンダイ
- 必要などころにつなぐこと
- 適度な距離感で関わりを持ち続けて行くこと、喜んでもらいたいとプラスの気持ちで関わるのが大事だと感じた。
- 人と人とのつながりや自身が役に立っているという実感があるという実感がその方のエンパワーメントとなり笑顔や生きる力になっていくこと。
- 引きこもりについて支援するための考え方や関わり方を学びました。また、当事者や親が年代ごとにどのように考えがあり、それが変化していくのかが詳しく知ることができて、とても参考になりました。
- 受容することについて改めて考えさせられました。法人、民間だけでは取り組むことは難しく地域力が必要であると感じた。
- ケアマネジャーだけではどうしたら良いか分からないので、関係機関との連携、家族全体の問題を丸ごと引き受ける拠点が重要で、本人と家族と分けて支援していくことが必要だと学んだ。引きこもりの人に限らず自己肯定感を高め地域社会と関わることで再生するカギになるんだと感じている。
- 引きこもりの子供の親は同年代の子供と比較すると、劣っている事にあせって来るし、子供は追い詰められて苦しくなってくる。引きこもりの子供は、親には心配をかけたくない、親から褒められたい、自立したいが失敗を恐れて先に進めない。このような時に背中を押してもらえ第三者の力を借りる事が出来れば化学変化が起きて何かが変わる可能性があると思います。高齢者も同じで子供には迷惑をかけたくない、何とか一人で生活していきたいと思って頑張っている、病気や怪我により、子供に大きな負担をかけてしまう。平日頃の家族の意思疎通や第三者の力を借りる事も必要だと思います。
- 引きこもりは社会からの脱落者、精神病患者、障がい者、親に甘やかされて育ったため我儘のままに暮らし自立できないなどと思われがちだが、そうではなく単に心が深く傷付いてしまっているだけであると改めて確信を持つことができました。本人も何とか現状から脱却したいと感じていると思うので、私たちも関わり方に配慮したり支援してくれるところの情報を提供したり、本人がヘルプしやすい環境を整えることが大事だと思いました。また本人に対する家族の関わり方や焦らずに一つ一つの問題をクリアしていく姿勢など、引きこもり問題だけでなく一般的な家庭の在り方としてとても参考になることだと思えます。
- わたげ福祉会の取り組みで、母親や父親の勉強会や交流会、本人には個別に対応した学び直しの勉強会、学校でやり残したことを全部やるという支援、欲しいものや必要なものは自分で働いて賃金を得て購入する、自分の言葉で自分の意思を言語化するなど、日常生活を通しての支援内容が素晴らしいと思います。何気ない日常生活のやり取りが本人や家族を癒し、また支援者も癒されるような関係であるべきと強く思いました。
- 人は何度でもやり直しができるからあきらめてはいけない
- どうしていいかわからないまま時間だけが過ぎてしまったかたたちが、自分たちで前向きに動き出せるようにしていけるお手伝いをしている法人があるということはとても心強いことだと思いまし

た。自分が利用者さんと関わる中で 8050 問題に直面したことは今まではありませんでしたが、今後そういう家庭に携わる機会がありましたらぜひお伝えしたいです。

- ケアマネジャーをしています。利用者さんとの関わりの中で引きこもり等の家族がいたり家族からの相談を受けた際は地域包括などに相談をしてわたげ福祉会につながるようにしたいです。
- 引きこもりの問題について細かい過程が分かりやすく学べた。
- 引きこもりの方への関わり方
- 秋田先生の「人をわくわくさせたい、楽しませたい」という基本的な姿勢は、対人援助に携わる者の最も大事にしなければならない核心ですが、日々の多忙な業務や制度等に埋もれて忘れてしまいそうになっていました。現在、老人ホームに勤務するケアマネとして、「姥捨て山」「お迎えに来るのを待っている」という言葉は、入居者様から良く聞く言葉です。幾つになっても「わくわく」して、過ごしていただけるよう「わくわく」するようなケアプラン作成をしていきたいと思いました。
- 支援をすることを支援者である秋田氏が楽しんでいることが長続きしている理由ではないかと感じた。また、様々なネットワークの構築があり豊富で柔軟なアイデアが様々な事業につながっていると感じた。
- 8050 問題が起こる過程について、今回の事例で学ぶことができました。歳をとるごとに社会に出づらくなっていくことや、親と子の考え方の相違から始まっていくことなど、自分自身の両親との関係、子供との関係についても深く考えさせられる思いで聞いていました。
- 身近な問題として、引きこもり者と家族の関係性
- 中高年の引きこもり者の現状とその家族の現状について学ぶことができました。
- 居場所作りの支援を初めてうかがいました。高齢者に関わる中で気になるご家族がいる事がありますが、行政に任せるしかないと思っていましたが、秋田さんのような支援してくれるところがあるとわかっただけで、今後関わり方が変わるような気がします。繋がりを続けることの大事さが学べて良かったです。
- 世代を超えた関わりの中に、課題の解決になる種がたくさんある。種を見つけるのが支援者の役割だと思った。
- 経験しないでしまった空白の時間という言葉の重みを感じました。長く重い時間であり原因がなんであれ辛い時だったと思います。引き込み、気がついたら 62 歳介護保険で対応した方もいました。もう少し早く判れば他の方法もあったと思います。何処に繋がったら良いかが分かり学び多い時間でした。
- 県内でそのような活動をしている機関がある事を知りました。本人中心ではありますが、来られなくても家族の話聞いて継続的に支援を行う事が大事ということ。
- 長期化し両親が高齢になって、周囲が問題に気付くケースが多いということ。
- また、活動の中で、本人に様々な経験の機会を作るのは、得意分野を見出したり、自信が持てたり生きる力になると感じました。
- 様々な問題を抱えている家庭がある。入りはどこからでもいいので連携した支援が必要である。
- わたげの活動を伺い、若者・高齢者をつないだ居場所作りが広がっていったと思いました。
- わたげの活動を知ることができた。

- 普通の暮らしが大切であることを再確認しました。
- 経験が少ないのでそれを再体験させること大事。
- 本人の気持ち、親の気持ちを丁寧に聞くことが大事。お互いに違う気持ちを持っている
- 弱い方を救える、その組織作りが長い時間をかけて確立された。チームワーク等々、本当に素晴らしいことです。
- 思う事はあってもなかなか難しいですが、あきらめてはいけないんですね。
- どんなに小さなことでも、種だけをまくのではなく伸びて、成長できるような支援が必要です。一人でくすぶってはいけませんね。
- 一人で何とかしたいと思っているうちに時間が経ってしまう。間に合わない焦り、親や周りの思いはひしひしと感じている。若い方の抱えている思いも大変なこと、利用者(高齢者)が心配していること、両方にストレスのある問題。
- 引きこもりをしている本人(若者)は高齢者の親(私たちが関わる方々)を通して出てくることもある。社会とのかかわりを断っている人、関わり方を知らないことがあるので、ケアマネと連携をしていく機関がどこなのか?を知りたいと思った。
- 外に出られる人としては、社会とのかかわりを通して就労したりできるが、居場所になれるのがどのくらい成功しているのか知りたかった。
- 引きこもりになる気持ちの変化と子と親それぞれについて詳しく知ることができた
- 役割の理解、連携、「当たり前」「普通」の生活について
- 拠点づくりが必要なこと、本人が来ないと話にならないと言われることの大変さ
- 高齢者支援と若者支援にはお互いの接点があり、相互扶助の力がある。引きこもりも天気があれば再生が成り立つ。
- 空白の時間や成功体験を通して次に進むことができる。
- 親の気持ち、この気持ち、それぞれの移り変わりを知ることができました。表に出てきた元引きこもりの子もやる気や希望が生まれる(肯定感が高まる)ことで積極的に社会参加できるようになることは素晴らしいです。
- 過程全体の問題として捉えていくこと。親支援、子供支援を分けて関わっていく。それぞれが当事者である。
- 家族全体の問題を丸ごと引き受ける拠点があるとよい。
- 人として関わる、世帯丸ごと係る大切さと厳しさを再認識しました。包括だけが担う役割ではないと感じます。
- 目の前の要介護者・要支援認定者だけでなくその家族も含めた支援を考える必要がある。
- わたげの活動にも継続的にきちんと制度化・予算化すべき
- 当事者と家族の思いは一致しない。両者ともに正しい主張をしていると思います。お互いの現実取背負うの葛藤が十分にできる場が必要なんだなあと感じました。
- 今後、仕事で出会ったとき、十分に話を聞き、適切な機関と協働できるとよいと思います。
- その個性、あなたらしいこと、どんな人でも尊重すること。
- つまづいても人には再生する力があること。ほめる(認める)、受容すること。

- 若者支援について、親の葛藤はあるが、本人の気持ちをゆっくり聞き出すことが大事と感じました。
- 事例を通して、若者支援と親支援の役割を分け、各担当がそれぞれの役割を発揮することで問題点・課題が明確になると学びました。
- 一人にはさせないこと。本人の気づき、本人の意向等を大事にしていく。
- 国分町に住むと原動力になること(笑)
- 自立だけがゴールと思っていましたが、「二通りの選択肢」は目からウロコでした。今後の支援の視野拡大になりそうです。
- 引きこもり者、家族、世代ごとのそれぞれの思いや状況が表として見れたことで徐々に変わっていく状況が理解できた。
- 社会問題となっている 8050 問題。解決の糸口は長くに渡り、関わりを持てる支援者がいるかどうか。
- わたげ福祉会の活動について。様々な事例からの対処方法。多種多様な対応について。
- 本人が引きこもることに苦しんでいるということ。友人と比較する。結果として本人は動けなくなり、反動で親にあたる
- 「ひきこもり」について私たちはどこに視点を向けて支援していくべきか考える機会となりました。
- 家族支援として、心を元気にする工夫をしながら家族からの相談を丁寧に継続的に支援していけるようにしたいと思いました。
- 引きこもりの方への支援として、親支援、引きこもり支援に分けて、それぞれに支援を行う必要がある。
- 支援方法として、事業所、役所、医療、ファイナンシャルプランナーなどと連携をとる必要がある。
- わたげの会としての活動内容について。空白の時間への配慮、親の思いと子の思い。
- 目標をはっきりさせる。心を元気にすることを学んだ。
- 支援者が良かれと思って色々するのはなく、本人の困りごとを聞いてそのことに対してどうしていったらいいか一緒に考えていくこと。本人が考えることを奪わないことがとても大事と学びました。
- 間違ふことや失敗することはダメなこと悪いことでないこと。
- 支援の過程が本人・同居家族の主観の時系列で流れがつかめ貴重な資料になっていると思われました
- 高齢化する引きこもり者と家族
- 高齢者支援に関わっているケアマネジャーは、家庭状況を把握している。80才代の高齢者と引きこもり等の問題を抱える50才代の子供と関わりをもつ場合もある。そのようなケースと関わりをもった場合は、早期に専門職へつなぎ、支援出来る体制を整えられるように支援していく必要がある。
- 一人で抱えすぎず、直接動く立ち位置の場合と、繋がる、繋げることが必要な場合。
- 本人の状態をみて、本人、家族等の状態にあわせて、適切な情報提供をしていくために、適切な繋がり先の情報、役割りの理解を持つことが重要。
- 利用者さんのお宅を訪問する中で、支援が必要だと思われる方たちに出会うことがあったが、親が子に支援を受けさせたいと思っても、子供本人が相談に行けないケースがほとんど。先生のお話

もあったように、本人が行動しないから、行政に相談しても、対応できないと断られて、その後どうする事もできずにいました。

- 今までは、わんすてっぷさんしか知りませんでした。今回わたげさんが素晴らしい活動をしている事を知る事ができました。ありがとうございました。
- 一番学んだことは、支援する側の勝手な思いで、対応しないことである。先生のお話の中にあつた、年齢はそれなりに重ねていても、経験が少ない、空白の時間があるのだということを、支援する側は、肝に銘じなければならぬと、強く感じました。やはり大事なものは、本人と話し合うことだと、そして、その人のペースで支援していくことが大事だということ学びました。
- 若者の居場所作りから始まり、若者の引き籠りになった心理状態を理解して、親も一緒に子供の心の内の理解と学ばれていました。
- 浮かび上がる課題をそのままにせず、どうしていったら良い方向に向いていくのかを考えて、行動も起こす。
- これがコミュニティーオーガニゼーションなんだ、と思いながら聞いてました。
- 浮かび上がる課題に対して、行政の腰はかなり重いです。その行政をも動かす事になり、諦めずに長く取り組む事の大切さを学びました。
- お互いに年齢を重ねていくことで変わっていく心の変化、どうすればいいのか分からないという戸惑い。介護支援専門員としてどう関わっていくのか、秋田さんの活動を通して心が元気に、豊かになるということのすばらしさを感じました。
- 同じ役割を担う母・父の集まり、同じ年齢でかつ同じような境遇を経験してきたからこそ、話せる言葉があるわけで。
- そういった活動を支援し、見守ってくれる存在がいるということを知れたことも大きな収穫であったと感じています。
- ありきたりな言葉をかけるのではなく、「こういった支援団体もありますよ」とお伝えできることは自分にとっても大きな一歩になったと思います。
- ケアマネ(包括?)が家族丸ごと抱えなくても、手を差し伸ばしてくれるところがあることがわかった。本人と親の気持ちの変化が具体で分かりやすかった。
- 秋田さんのバイタリティーについて。
- 私は、たぶん秋田さんが音楽活動をなさった特養で働いていて、その時は趣味の一環のような印象を持っていたと思うのですが、その後ここまで大きな活動をされ、秋田さんがいなくなったら引きこもりから脱することができない方がどのくらいいたかと思うと、感慨深いですし、様々なネットワークとか秋田さんの人柄がなし得た、想いに共感された方が大勢いたことに、感動というかすごいですよね。すごい方です。好きだけでできないこと。パワフルです。
- 今まで偏見を持って、8050問題での子供その方の事を見たり考えたりすることはありませんでした。しかし、セミナーに参加した事で、利用者目線で見ること、ケアマネとしては高齢者の支援という視点ですが、逆のパターンで困っている家族、今回の場合は引きこもりや就労できない子供ですが、その当事者の困っていることは何かを知る。その当事者を見なければいけないと思いました。
- とても分かりやすく、ひきつけられる内容でした。各市町村にも、このような施設や活動するとこ

ろがあるといいなあと思いました。最後の感想をお話した方が偶然にも施設でお世話になった方だったのが、心に響きました。ケアマネジャーとして活躍しているという事でしたので、環境が大切なんだと痛感しました。

- 多職種連携の必要性を学ぶことができた
- とても難しい問題ではありますが考える機会になりました。居場所をつくること、そしてどのような支援が必要なのかを考えつなげていく。地道な取り組みが必要であり課題も多くあることを学びました。

■今回のセミナーの感想等■

- 大変勉強になった
- 気づかないだけで自分たちの周りにも今回のような支援を必要としている人達がいるかもしれない。気づいたときには必要な支援が受けられるようにしていきたい。
- 実際に関わりを持っていた方が最後に出てきたのでびっくりした。早ければ早いほどよいと思った。
- 胸がほっこり温かくなり自分忘れかけていた、相手が笑顔になることの大切さや自分達が人と人をつなぐ役割であることを思い出させていただきました。このセミナーに参加は出来て幸せでした
- ありがとうございます。
- 普段聞けないことが講演で聞くことができ、勉強になりました。今後は、ケアマネとしてこのような事例にもかかわっていく可能性が高まってくることも考えられるので勉強していきたいです。
- 研修を受け、事情があって社会に出て行けない方も法人の活動を通し前向きに自分の人生を考えることができおり感動しました。ここまで来るには時間がかかると思うが根気強くスタッフが潜在能力を信じ関わっている結果が表れていると思いました。
- 私自身、引きこもりとは違いますが高次脳機能障害、失語症を患っていていずれ働きたいという 44 歳の男性の担当をしており、就労移行支援に繋がりたいと支援している最中でした。それまでの間介護保険のデイサービス、訪問リハビリを週 1 回ずつ利用して外出するのに慣れてから障害福祉サービスに繋がっていければと思っており、今回の研修は大変参考になりました。ありがとうございます。
- 講師の秋田厚子様は淡々と話していましたが、引き込まれる話の内容に感激しました。ありがとうございます。26年の歳月で地域には必要な貴重な支援施設になっている事に再確認しました。途切れない支援で幅広い年代の皆さんが利用出来るオアシスと思います。
- 今から 15 年ほど前、何の資格もないまま八本松にあるデイサービスで初めて介護の仕事に就きました。送迎車でわたげ会の前を何度も行き来し、「ここはいったい何をするとところだろう?」「若い人が出入りしているので高齢者施設ではないな」「障がい者施設?」「でも 1 階の駐車場のところでタバコを吸いながら談笑している子たちは障がい者には見えないけど」などと常に気になっていた場所でした。今回のセミナーに参加させていただき、とても懐かしくその時のことが思い出され、またわたげ会の取り組みを詳しく知ることができ、とても感慨深かったです。8050 問題に関しては、過去

に起こった痛ましい殺人事件等をきっかけに以前から関心を持っておりました。山口県宇部市のふらっとコミュニティから発信されている山根教授のケアマネ支援用冊子を居宅に取り寄せたこともあります。今回仙台市にある団体の取り組みを知ることができました。また秋田先生の笑顔と、優しくお茶目な話し方、声のトーンにとっても感銘を受けました。人を惹きつける魅力があればこそ、子供たちの傷ついた心も癒されるのだと思います。私もこれから人を笑顔にできるような関わり方を常に心掛けていきたいなと思いました。素晴らしいセミナーに心から感謝いたします。ありがとうございました。

- 自分で思うだけでなく、利用者様にもそう考えて頂けるようになりたい
- 秋田さんのお人柄がとてもすてきだと思いました。アイデアも行動力も無敵だな、と思いました。とても同じようにはできませんが、お話をうかがっているだけで元気が出ました。
- わたげの会を初めて知りました。
- 自分の居場所、楽しい居場所があることは誰でも必要です。何らかのきっかけで他者との交流ができなくなったりお会いしした時はわたげ福祉会につながるように働きかけたいと思います。秋田先生の明るくパワフルなお人柄も素敵でした。
- 研修できてよかったです。事務局の皆様、ありがとうございました。
- 高齢者にばかりフォーカスしていたが家族も問題を抱えていて社会全体で解決すべきで相談できる拠点も必要だし、ケアマネジャーも引きこもっている家族に対しての対応を考えなければならないと感じた。
- ご家族様が引きこもっているケースを実際に抱えています。今後の業務に活かせる内容でした。参加して良かったです。
- 現在の制度では、相談機関、支援機関は年代で区切られている機関が多く、相談内容によっては、いわゆるたらい回しにされる、また、どの機関にも対象にならず制度の狭間に落ちてしまっている方もいる。年代を超えて、一人の人として関わられるワンストップ型の機関が、必要なのではないかと私も思います。秋田先生のお人柄と内容に引き込まれた（セミナー）2時間でした。機会があれば、また、秋田先生の講演を聞いてみたいと思いました。ありがとうございました。
- とても貴重なお話を伺うことができました。ありがとうございました。
- 秋田先生の行動力を見習って、ちょっとした気付きやアイデアを大切に形あるものにしていけたらいいなあと感じました。大変勉強になりました。
- とても興味のある研修会で参加を楽しみにしていましたが、システム上のトラブルで参加できませんでした。録画されているのであれば、是非研修だけでも見ることは出来ないでしょうか。
- 相談先等があることの安心感。
- 引きこもりが長期化し中高年の引きこもり者が増えているが、その親の介護の問題が出てこない引きこもりに関わる機関（人）がない現状が問題だと思った。一度引きこもると、何かきっかけがないと社会に出ていけなくなり長引けば長引くほど社会から離脱していく現状を何とかしなければならぬと思う。それにはまず、身近に相談窓口があり、進む方向を見出し一步を踏み出せるようになるまで支援を継続できる機関が各地域にあるべきだと思った。行政の職員は、ケアマネが関わっていると（あそこはケアマネが入っているから行政は手を引いていい）と思われるようになっていくように感じ

るが、ケアマネが支援する老人の家族までは関われないので、そこは行政が主導して必要な機関を紹介し自立支援につなげてほしいと感じました。それには、ケアマネも引きこもりの現状を把握したら行政に相談するというシステムを構築していくべきだと思った。そのためにも、相談窓口はしっかりとさせておくべきだと思いました。今回のセミナーは大変ためになる話が聞けて良かったと思います。ありがとうございました。

- 社会とうまく関われない人の心理状態が分かりやすく、その家族の想いも知る事が出来て大変勉強になりました。うまく関われないだけで、本当は不安や葛藤があり、人との繋がるきっかけを誰かが見つけてくれたら、そして本人が動かなくても家族支援により、孤独から解放される事を知りました。
- 自身も、今後そういう支援に関わってみたいと思いました。また機会があればお話を伺ってみたいです。ありがとうございました。
- わたげの利用者さんの笑顔が最高でした!
- その年代に必要な経験をする。
- 大事な事で、焦ると忘れがちになる事だと気づきました。ありがとうございました
- 引き込みりが続くと、本人家族も隠れてしまい見えなくなる事が怖いと思いました。
- 私も何か出来ることを探して何かの役に立っていきたいと思いました。
- 訪問すると、気になる家族がいらっしゃる家庭もありますが、踏み込んではいけない気がして避けていました。
- 自分自信、精神的に強い方ではなく、他人事とは思えません。
- そして、ご家族も色々な思いで過ごされていると思います。
- 親の勉強会では、敢えて実の親子でない人と会話できる機会もあり、刺激になった人もいるという事で良いなと思いました。
- 学習サポートや就業サポートなど和田先生らの寄り添う姿勢が素晴らしいです。
- できるだけ早い時期に介入できると良いと思います。私はケアマネとして何ができるか分かりませんが、講演を通して現状を知れた事が成果になりました。次にできる事を考えたり、我が町ではどのような機関が機能しているのか確認したいと思います。
- 今でも「訪問したら孫や子が引きこもっていると相談を受けたけど、私たちの分野じゃないよね」と話す介護支援専門員もいる。「個人情報だから」と話す人も。行政には多問題に対応するセンターはないので、各々の支援者が連携するべきであると思っています。
- 個人情報の取り扱いとは？介護支援専門員の研修会の開催も必要だと感じています。
- 「心が元気であれば、いつからでも始められる」という言葉に、励まされました。
- いろいろアイデアあふれ楽しい。
- 拠点が全国にできるといいですよ。
- とてもパワフルで、型にはまらずアイデアがわいてくる源は役に立ちたいという気持ち。それが助けになって返ってくる。win-win だと思いました。
- 素晴らしいお話をありがとうございました。私もできることを枠にとらわれず考えていきたいと思っています。

- 仲間のいる安心感、見守りのあるいやされ感、配慮された綿密さ。
- 楽しみながら少しずつ自信を持ち社会参加につながる。素晴らしいことです。
- 子供の教育の機会で、社会での経験、空白の時間など、私がお会いする以前からの苦勞など、怖いと感じていることを知り、今後のかかわり方を変えていきたいと思います。
- ケアマネは毎月訪問時に利用者さんの家族として引きこもっている息子さんや娘さん、お孫さんに会うことがあります。実際に会えていること(ご本人でなく親や祖父母の話だから、一緒に聞いてくださるのでしょうか?)は本当はすごいことなんだなと思いました。もし許されるなら次につなげたいと思いますが、実際はどこに相談したらいいのかが思い浮かばないのが残念です。
- 困ったらどこにまず相談するのが良いか?→行政なのでしょうか?
- わたげ福祉会の活動が空白を埋めて自己肯定感につながっていることがよく理解できました。前向きになれる活動を提案できる事っていいですね。
- 何事においても「本人」の参加が無ければうまくいかないんだという事。
- 適切なサポートとはどういうことなのかを、ずっと考え続けていかなければならないと感じた。
- 行政は自分のところで受け入れたくないの、たらい回しが発生するだろうと思う。
- 親のように、外(仕事)に行きたくて欲しい等思ってしまうが、きっかけや少しずつの体験が必要なことを学びました。
- 子が自ら”相談したい”と行動に移せる場合は良い方向への道筋が立ちやすいかと思いましたが、本人がかたくなな場合は難しいと感じました。
- 引きこもりの方が何かしら障害や疾患を持っているのを知った場合はつなぎ先の検討も立ちますが、そうでない場合は相談をどこにすべきか悩むかなと思いました。地域ごとの相談機関の周知の機会も欲しいところです。
- このような世帯に出会った際には、対応を急がず受け止めて、一緒に考えながら総合相談・包括的相談を行っている期間と共有していきたい。
- 世帯のことを丸ごと引き受ける拠点として、市町村で行う重層的体制整備事業を開始し、有効に機能する事が出来るよう、仕組みだけでなく十分な人員配置やネットワークの構築が出来るとよいと思いました。
- どこか遠くでの活動でなく、すぐ身近なところでこれだけの活動をされていることを知ることができて刺激を受けました。ありがとうございます。
- 日頃、介護保険やケアマネジメントに特化した仕事をしているが、ケアマネジメント<高齢者支援<福祉 と考えた時に、福祉として引きこもり者の支援にも視野を広げると、まだまだ私の知らない世界がありまだまだインプットすべきことはあるのだと感じました。
- いわゆるニートの方について、女性のニートは「家事手伝い」として定義づけされるのに、男性の引きこもり者は支援の対象者となってしまいがちだと感じました。
- 男性の引きこもり者も在宅要介護者の主介護者として重要な役割を果たしている場合も多いと考えます。その人が担っている役割にも着目すべきと感じました。
- 私は現在、不登校(中3)の娘がいます。不安が強くなるとイライラするのか暴言等が見られます。何か一歩踏み出そうとする気持ちは伝わりますが「無理することはないのになあ～」とったりして

います。

- 今日改めて家庭を振り返った時、不足しているのは「相談」かな？と思いました。※本人の好きな話題から…
- 当事者になり思うのは、「不登校」と話すと、周囲の戸惑いが親子ともに傷つきます…。社会の皆さまの温かい目と心が地域にあれば、それぞれ健全さを取り戻せると思います。
- 私は職場に恵まれ、孤立・孤独になることは現在に至るまでありませんし、娘も地域へは出てみようとして外出しています。助かっています。
- 今日はありがとうございました。自分の振り返りができました。
- ひきこもりは親の焦りによって孤立へ追い込まれる。引きこもりを何とか早く「何とかしたい」といった事により長期化してしまう。今は、このような人がどこにいてもおかしくないようだ。何らかのきっかけづくりを見つけることにつなげられたらと思う。
- 自分の職場でも、職員の子供が、学校に行けないけど高齢者となら話が出来ると、高齢者のお手伝い出来る。そのような、自分の居場所の提供につなげるお手伝いをしていきたいと思っている。
- 包括支援センターで働いています。働かない、親の年金で生活（暮らす）している方の相談がとても多いです。
- お話を聞いて日々の業務を振り返ると、その人、その人色々な理由で現在の生活が存在している（働きたくても働けない理由、病気、依存症など）ことがあることをまずは尊重、受け入れることが大切なんだと思いました。そして、その人の困りごとがすぐ解決にならなくても解決に向けての話し合いや、過程も大切なことだと思いました。
- 包括の主任ケアマネの役割として地域のケアマネジャーから相談があった際には、今日学んだことを生かせればと思います。総合相談のいい勉強になりました。
- 居場所作りの重要性和、人と人をつなぐ事でその方の考えることを支えるという気持ちがとてもすごかったです。
- イベントの企画などバイタリティがすごすぎです。
- 肯定感や、成功体験は人を強くすると感じた。
- 人とつながる、つなげることが人として人を感じる事ができるのだと感じた。
- 講師が常に生き生きと笑顔で話されており、支援の大切さ、楽しさがよく伝わり素晴らしい講話でした。
- わたげ福祉会での活動スライド。大変すばらしいものだと感動いたしました。人や社会と少しずつ関わりを持ち始めて、外や社会に出て人生を再スタートさせていく様子に希望を感じました。
- 8050 世帯の問題は今後ますます増えてくると思われる。対策や新しい取り組みをアンテナを張ってケアマネ業務にあたりたいと思います。
- ひきこもりのお子さんがある方を何件か担当している。関わり方をどうすればよいのかと考えていました。本人と親と分けて対応する等の支援参考になりました。
- 親と子の心理状態や年代別の心の変化を理解していきながら様々な理由をひきこもった若者を高齢な親が支える現状にあり、将来にわたって安心して暮らせるように家族や関係機関のほかに地域全体で取り組むべきだと考えさせられました。

- 自分が知っていた引きこもりの方への支援事業がいかに少なかったのかがわかりました。とくにわたげの会の具体的活動について聞いていて感動しました。
- もう亡くなってしまいましたが、弟(中学から引きこもり)の相談を市にしていた時、「わたげの会というところがあるので、本人を行かせてみては？」と言われ、本人が行くものだろう思っていたので本人に伝えて「行かない…」との返答で繋げなかったことがあり心に引っかかっていました。
- 個人的にもっと調べていたら支援内容がもっと広がったことに気付いて行動できたのでは…と、市のひきこもり相談だけでなく、わたげの会に相談し学びたかったと感じました。今後相談支援で出会うケースでよりよい関わりが出来るよう学びを深めたいと思います。
- 外に出るじゃなく、つなぐまでの支援を知りたかった。
- 引きこもる状況になった本人の気持ち、その親の気持ち、教えていただき自分の中の偏見に気付きました。相手のことをわかる努力を、相手の話を聞きながらやっていきたいと思います。
- 支援のエピソードも多く勉強になりました。分量が多く追いつくのに精一杯でした。
- 父親教室で懇親会があり、その料理をメンバーが作るというのが気になりました。引きこもり支援というと家族間の問題もあり、親に対していい感情を持っていない当事者が親の飲み会につまみを作るという行動に抵抗を示さないのかと思いました。
- とても参考になりました。私の周辺に似たような家族がおり、対応をどうしたものかと思っていました。相談できるところがあることも知りましたので、相談を受けた場合はこれを参考に支援していこうと思います。
- 引きこもり等の問題を抱えた若者は、支援体制を整え計画的に支援すれば、社会復帰し当たり前の生活を送れるようになる。潜在的に引きこもっている若者を発見した場合は、専門職につなぎ適切に支援出来るように支援していく必要がある。現代社会の問題であり、支援体制について学ぶ事ができました。お忙しいところ貴重な講義ありがとうございました。
- 人は、誰と出会い、誰とつながる機会を持つことができるか。繋がることで変わる事、変われる事。変わってしまう事。
- 環境が、タイミングがとても大切で、焦ることで、マイナスになってしまっていることもある事。自然に地域で支えることができれば理想ですが、住む人の家族の構成も変わった現在は、わたげのような居場所が、小規模でもいいので地域包括支援センター単位くらいで出来れば嬉しいです。
- これまで、利用者さんのお子さんたちが働く事ができず、利用者さんの年金で生活しているご家庭は何度も見てきました。一生懸命に親の介護を頑張ってくださいる方もいるのですが、10年通っても一度も顔を見せてくださらなかつたり、ドア越しでしか話をした事がない方もいます。帰りの時に『いつも家の中をきれいにしてくれて、優しい息子さんですね』と隠れている息子さんに聞こえるように言ってみたり『お邪魔しました』と二階にいる娘さんに聞こえるように言ってみたりしています。
- そういった家庭で、親としての気持ち、兄弟としての気持ち、いろいろとお話を聞くことがあるのですが、本人が自分から助けを求めたいと思った時にはケアマネとしての訪問は終わっているかもしれないので、わたげさんの情報は伝えていきたいと思いました。
- リモートの方の、一生懸命社会で生きている姿に、感動しました。自分のことを話すことは勇気がい

ったと思いますが、参加している私たちが、勇気をもらいました。

- 先生のお話、リモートで感想を述べられた方ありがとうございました。
- 代表の秋田さんのパワーに脱帽です。
- 8050 問題を深刻にならない若いうちに、若者の居場所を作り、勉強や就労へ繋がる様な機会や働きがけをされ、体験の機会を沢山作られて、パワーに圧倒されました。
- 「前向き」「ポジティブ」な考え方や行動は、将来的に良い方向に向く話を聞けて、パワーを頂きました。
- ありがとうございました。
- 夜勤明けで参加した為、途中からの参加となってしまいました。
- 秋田さんが「年齢とともに体は動かなくなるけれど、心は元気でいたい」と話されていた言葉が印象的でした。スライドに写された写真もすごく素敵でした。
- 私達が支援するのはその人だけではなく、その人の周りにも目を向けることが必要で。
- 高齢者に限らず、支援を必要としている方はいるわけで。
- 介護に関係のないことでも話せる間柄を目指して、私にもできることを始めていきたいと思いました。
- まずは今回、学んだことをいつか誰かに届けられるようになりたいです。
- もう少し、ケアマネと包括の動きを知りたかった。最後にフリースクール参加経験のある方が意見を述べられたが、ケアマネの中にも人混みや対人が苦手な方がいるという気づきがあった。グループワーク研修なども配慮が必要と感じた
- お疲れ様でした。
- 私は、秋田さんの活動拠点とは遠い地区で仕事をしているため、インフォーマルサービスとして、利用できないかもしれませんが、このような引きこもりの支援や就労支援があるということ、自分の地域でも調べてみたいと思いました。
- 地域にないものは作る、という発想はあまりないですが、会社を動かすことも自分次第かもしれないと、秋田さんのパワーを少しいただいてやっていきたいと思いました。
- 偏見を持たずに当事者を見なければいけないということ。自立支援について、ケアマネとして役割をしっかりと理解して考えていきたいと思います。最後に感想を述べた方が、そのわが福社会出身で、人の為に何かをするということで、ケアマネに受かったとのことで、同期として私も頑張っていかなければと思いました。
- 高齢者、障害者、それぞれの人が豊かな気持ちで生活する場を獲得することが出来る事を確認することが出来た。
- 8050 問題は、近所で身近にあります。日本の課題であり学校教育、社会に溶け込めずに引きこもりをしてしまう子供や大人をどうフォローしていくか課題であり、支援者の育成も必要な状態ではないかと思います。色々な課題がある中で取り組まれている方がいらっしゃることを知り頭が下がります。どんな状況でも自分が生きていく道が開かれる権利があると思います。